

平成29年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金申請事業概要一覧

NO	対象事業	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施場所	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	申請額(円)	備考
1	スタート事業	大井盆踊り大会実行委員会	会長 山本隆志	大井盆踊り大会	大井神社境内	平成29年8月19日	・地域の老若男女が集まる場がない	昨年、地域でつくった「大井音頭」を活用して、地域の全ての住民が集まり、交流できる場づくりを行う。	・交流する機会が少なかった地域に交流の場を取り戻す。 ・参加者500人	220,000	150,000	
2	スタート事業	大井町文化振興会	会長 松山一男	第1回大井町文化発表会	大井小学校、大井町内	平成29年4月30日～平成29年12月31日	・高齢者をはじめとする住民の生きがいづくり ・住民同士の交流する機会が少なく、地域が高齢化していくなかで、助け合える関係ができていない。	・高齢者の生きがいづくりと地域住民の交流の場づくりを行う。 ・地域の強みである文化活動の成果を地域全体に披露するとともに、その場で老若男女関係なく交流できる場をつくることで、地域で顔の見える(助け合える)関係づくりのきっかけをつくる。	地域の強みである文化活動の振興を通して、地域のなかで確かな人間関係と、住民が親密な絆で繋がりを支えあうまちづくりを目指す。町民祭と同日開催とすることでより参加者の多い事業を目指す。	300,000	150,000	
3	スタート事業	べついいいきいきサロン	会長 廣山津岐子	べついいいきいきサロン	西別院、東別院町公民館等	平成29年5月1日～平成30年3月31日	・東西別院町の高齢化 ・一人での移動が困難なことから孤立する高齢者が多い ・家族や地域の人の認知症への理解が少ない	移動式サロンの開催 一人での移動が難しい方にも参加してもらうため、自分たちが向いて市民の近くに「集いの場」をつくる。 ・健康チェック ・認知症予防ゲーム ・健康体操	自宅に引きこもった高齢者が地域に出る機会をつくり、交流の場を通して、QOLの維持向上に努める。個々の悩みによって、民生委員や地域包括支援センターに繋ぐ。	150,272	142,314	
									小計	670,272	442,314	
4	ステップアップ事業	Office Com Junto	会長 児島きよみ	外国につながる子ども・保護者の支援事業	馬路文化センター、法華寺、ギャラリー、ゲストハウス藤原邸	平成29年4月1日～平成30年3月31日	地域では外国語を母国語とする子どもたちが増えているが、子どもやその保護者が、学校では学べない日本語の抽象的な表現などについて学習する機会がまだまだ限られている。	①ひまわり教室の開催 月に3回開催、主に子どもの学習言語力の支援を行う。 ②課外学習 他の子どものグループとの交流事業や子どもの保護者に自信を持ってもらうことを目的とした事業を開催する。	・外国人の母親との日常生活だけでは習得しにくい抽象的な言語の習得を支援する。 ・子どもとその保護者の自己肯定感を高める。	252,200	200,000	
5	ステップアップ事業	馬路盆踊りサークル	代表 人見由紀子	「馬路音頭」普及推進事業	馬路町一円	平成29年5月1日～平成30年3月31日	老人会、子ども会、青少年協、体育振興会などの各組織間や住民間のきずな・つながり・助け合いの風土が弱まってきている。健康寿命をいかに伸ばすのか、またその支援体制を確立することが大きな課題。	・馬路町の情景が浮かぶ「馬路音頭」を地域のコミュニティーの場(運動会、敬老会、文化祭等)で活用し、地域住民が共通の踊りで交流を深める機会をつくる。また、踊りには健康体操の要素を追加することで、町民の健康増進にもつなげる。	・健康増進を目指して、町民の70%が「馬路音頭」を踊れるようにする。 ・地域を紹介する歌詞を用いた踊りを活用することで若者にも地域の良さを伝える。	1,005,000	200,000	
6	ステップアップ事業	70's Project	リーダー 松尾清嗣	セカンドライフ応援プロジェクト～お父さんのための「特別講座」～	安町ホーム和の家	平成29年4月1日～平成30年3月31日	定年退職前の人(特に男性)がセカンドライフのイメージをしっかりと持っていない。そのことが地域や家庭での孤立につながり、さらには、地域コミュニティーの崩壊にも繋がっている。	セカンドライフのプランニングのお手伝いをする。 ①企業編②地域編③家庭編の3クールで、企業での経験をセカンドライフでどのように活かしていくのかなどの講座を全9回開設する。	セカンドライフの過ごし方に対する提案をすることで、退職後も生きがいのある生活を実現させる。・参加者50名以上 ・当講座を通して、具体的な活動をしていきたいと思う人を参加者の	310,000	200,000	

平成29年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金申請事業概要一覧

NO	対象事業	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施場所	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	申請額(円)	備考
7	ステップアップ事業	かめおか体操祭実行委員会	実行委員長 吉中康子	第20回記念かめおか体操祭	京都学園大学 体育館	平成29年10月14日	近代化に伴う大量生産・消費の社会のなかで、子どもたちはきわめて人工的な環境で生活することを余儀なくされ、心身の健康上に様々な問題を抱えている。	亀岡市内で活動する健康増進グループ、老人会、女性会、学校のクラブ活動などが集う発表会形式のイベントを開催する。交流を通して、「健康づくり」「仲間づくり」「地域づくり」を行う。	これまで運動を続けてきた人に有能感を感じてもらおう。新たにスポーツやダンスを始める人を増やす。 ・演技参加者500名 ・観客動員600名	640,000	200,000	
8	ステップアップ事業	かめおか遊友ネットワーク	会長 田中英夫	亀岡を元気にするアクションプロジェクト	京都学園大学 体育館、市民ホール、ガレリアかめおか	平成29年4月22日～ 平成30年1月20日	高齢者の健康問題と役割りの創出 子どもの体力問題	市民のために開かれ、教えられたり、教えたりする参加型、アクションスタディーが可能な場づくりを行う。 ①手作りワークショップ ②WAKUWAKUフェスティバル ③かめおか共生プロジェクト	役割りを持った高齢者を地域で増やす。 高齢者に限定せず、市民の交流・健康の場づくりを行う。 ①毎回30人以上 ②500人 ③100人	345,285	200,000	
9	ステップアップ事業	重利の山を守る会	会長 長瀬清澄	森林の保全～緊急災害時の対応と地域の絆づくり～	曾我部町重利地区	平成29年4月1日～平成30年3月31日	森林の整備ができていないことから災害が拡大する危険性がある。現在の子どもたちは自然環境に触れ合う機会が少ない 災害時に対応できるほどの地域のつながり、絆が形成できていない	・山の整備 ・前年度つくった活動拠点を活用した、地域での避難訓練の実施 ・廃材を活用した木工教室(山を整備することの大切さ、自然環境の大切さを子どもに伝える)	・亀岡市全域に広報をすることで、自分たちの活動モデルを広める。 ・参加者数200人	225,000	200,000	
10	ステップアップ事業	亀岡全国ふるさと連合会	会長 坂本信雄	第3回亀岡全国ふるさと連の集い	ガレリアかめおか	平成29年10月22日～ 10月22日	・住宅開発に伴う転入者が多い町でありながら転入者が退職した後、地域とのつながりが無い。 ・転入者に亀岡の素晴らしさを伝える機会が必要	・第3回亀岡ふるさと連祭り 各都道府県のふるさと出身者同士の絆づくりとふるさと出身者と亀岡市民との交流の場づくりを行う。	・ふるさとを同じにする人たちの連帯感を育み、市内の社会貢献活動に繋げる。 ・市民に亀岡の良さを再認識してもらい、転入者の方にも市民との交流をもって亀岡のことを知ってもらおう。	334,546	132,000	
11	ステップアップ事業	自然豊かな亀岡の未来をつなぐ地域協議会	代表 西村直	おらがまち・むらのすごいところ大発見と農福マルシェ～地域の誇りが人を繋ぎ、小さな経済を動かしていく～	第三かめおか作業所	平成29年4月1日～平成30年3月31日	・農業、林業の担い手不足 ・耕作放棄地の増加 ・有害鳥獣対策	①自然豊かな未来をつなぐ地域協議会(3周年記念フォーラム) ②おらがまち・むらのすごいところ大発見 ③(仮称)亀岡農福マルシェ	コミュニティビジネスについて学習し、その成果を中山間地にある農作物直売所と連携しマルシェを開催する。マルシェでは、中山間地の課題と障害のある人の雇用の課題を繋ぎ合わせながら実施する。	105,000	85,000	
									小計	3,217,031	1,417,000	

平成29年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金申請事業概要一覧

NO	対象事業	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施場所	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	申請額(円)	備考
12	市民連携事業	アユモドキの保全と京都サングの応援事業実行委員会	実行委員長 坂本信雄	アユモドキの保全と京都サングの応援事業	亀岡市全域	平成29年4月1日～平成30年3月31日	市の魚であるアユモドキの保全に対する機運を行政任せでなく、市民が中心になってさらに高める必要がある。	・アユモドキの保全を呼びかける動画の作成と配信 ・動画の配信にあわせた寄付集めの実施	アユモドキの保全に係る経費を行政だけで負担するのではなく、市民参加型で集める。 ・アユモドキの保全に係る活動の様子を動画にし、アユモドキの保全の機運を高める。	400,000	385,000	
13	市民連携事業	NPO法人プロジェクト保津川	代表理事 原田禎夫	みんなで調べて学ぶ亀岡の自然と文化	亀岡市全域、当団体事務所	平成29年4月1日～平成30年3月31日	急速に進む都市化の影響で野生生物の生態環境の悪化や地域文化の伝承が課題になっている。また、市民が自然環境に触れ合う機会が減少し、自然環境の喪失につながっている。	・河川空間や水田などの水辺、湿地環境の状態を把握するために指標生物であるツバメの巣の数や位置情報の調査を行う。 ・その調査の過程や結果を活用し、「ツバメも子育てしやすいまち」をテーマに、シンポジウムを開催して、市民が自然環境の価値を再認識できる機会をつくる。	巢の保護だけでなく、農作物の安全、安心のシンボルとしてツバメを位置づけ、本市が「ツバメも子育てしやすいまち」として認知され、移住・定住の面でも貢献する。	960,200	500,000	
小計										1,360,200	885,000	
合計										5,247,503	2,744,314	